

夢をつないだ西海橋

私達が、身近に使っている西海橋は、どうやって出来たのでしょうか？

西海橋が出来たのは昭和30年(1955年)に完成しました。

西海橋ができるまでに、住民の暮らしをもっと良くしたいという考えから、『大串盛多』さんがたいへんな努力をしました。

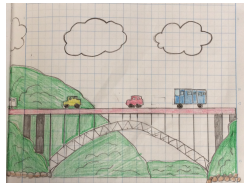
計画が出来たのが昭和15年(1940年)ことです。

しかし、戦争が始まり西海橋ができるのを楽しみにしていた人や盛多さんが、がっかりしました。

戦争が終わったころまた橋をかける活動が始まりました。

つくりかた

- ①いの浦せと側と針尾側の陸地に橋の土台となるきょうきやくと台座のコンクリーとをつくる。
 - ②きょうきやくの上にワイヤーでつり下げるための鉄骨をつくる。
 - ③兩岸から橋が落ちないようにのワイヤーで引っ張りながら、少しずつ組み立てていきます。
 - ④中央でつなぎ合わせて、最後に橋げたを作ります。
- これらの作り方から西海橋ができました。



作った代金は5億6000万円にもなりました。

大串盛多さんは西海橋を見ることなく昭和27年(1952年)になくなってしまいました。

西海橋公園には、大串盛多さんの銅像が建てられています。

平成18年(2006年)には、『新西海橋』が建てられました。

大串盛多さんがじつげんしたかった夢の架け橋実現されました。

皆さんもみじかにあるものを調べてみてくださいね！